

2015年5月の金融経済概況のポイント

—— 主に4月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

- 5月も、景気について「基調的には持ち直している」との判断を据え置きました。観光はオフシーズンに入ってもなお好調を維持していますが、個人消費は横這い圏内の動きとみられるなど、景気全体としては前月までと大きな変化はありませんでした。

—— 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」の判断を据え置いています。

—— 項目別には、新年度入りした公共投資について、「地域によってばらつきがみられるが、全体では前年を上回った」としています。

■個人消費の動向

- 4月の大型店売上高は、①前年4月は消費税率の引き上げ後の買い控えがあったって消費が落ち込んだこと、②今春、複数の大型店がオープンしたことなどから、数字が読みにくくなっています。
- 計数は前年との比較ですので、新規の店舗は除いています。前年比をみると、前年4月が▲6.5%であったのに対し、今年の4月は+3.8%の回復に止まっています。消費税率引き上げの影響がなかった一昨年4月との対比で見ると▲3.1%です。
- 消費税率引き上げから1年が経過し、これまで売りが伸び悩んでいた調味料や日用品の雑貨なども売りが回復してきているなど、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響も薄れてきていますが、個人消費全体としては横這い圏内の動きと判断しています。
- 現状では、家計に景気回復の実感が未だ十分に浸透しておらず、消費行動はなお慎重になっているように見受けられます。

▼大型店売上高

	1月	2月	3月	前年比、% 4月
2014年	0.0	+4.6	+14.4	▲6.5
2015年	▲0.6	▲2.7	▲13.5	+3.8

■観光の動向

- 4月は、道北観光のオフシーズンですが、旭川空港の国際線利用客数が前年比8割増加するなど、引続き多くのインバウンド（訪日外国人旅行者）が訪れているほか、本州方面からの国内客も増えてきており、観光は引続き好調です。

■公共投資の動向

- オホーツク地区では公共投資が増加しましたが、上川、宗谷地区では前年と比べて減少しています。前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、先行きは減少傾向を辿るものとみられます。

■今後のポイント

- 新年度がスタートした公共投資の5月以降の動向に注目したいと思います。道北では、建設業関係者が多いために、マインド面（景気の先行きの見方）への影響も気になるところです。
- 個人消費については、前年の消費税率引き上げの影響もあって、3月、4月と統計の数字が読みにくい状況が続いていましたが、5月以降、その影響が薄れていく中での動きも景気の鍵を握ります。今後、新規店舗の動向も含めて、個人消費全体のパイが増えていくのかどうか、注視していきたいと思います。
- このほか、これまで消費税率引き上げの影響が残っていた乗用車販売や住宅投資の今後の動向にも注目したいと思います。

以 上

